

図書館員が選ぶ この一冊

40

『オリンピックの身代金』上・下
奥田 英朗／著 講談社

昭和39年夏。オリンピック開催を10月に控え、東京は大都市へと大きく変貌を遂げつつあった。そんな中、警察を狙った爆破事件が発生。犯人からオリンピックの中止を要求する脅迫状が警視庁に届く。極秘裏に捜査を開始する刑事たち。やがて、捜査線上に一人の大学生の姿が浮かんでくる…。刻一刻と近づく開催日、高度経済成長期の息吹と矛盾を織り交ぜながら、息をもつかせぬ迫力で見事に描いたサスペンス巨編。



国家の威信にかけて、オリンピックを開催させねばならない警察。そして、中止させたい犯人の真の目的とは？ 吉川英治文学賞受賞作である。